南山短期大学人間関係研究センター事業報告
（1985，1986年度）

Ⅰ　研　究　会

1.「今日からみた人間関係科創設の意義」…… 澤田　慶輔 …153
2.「スペインにおける生命倫理研究の現状」…… まどか庸代 …155

Ⅱ　社会人研修

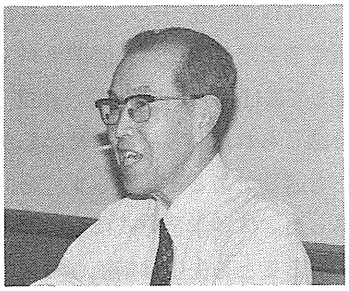
1.　人間関係基礎研修講座 …… 158
2.　人間関係専門研修講座 …… 159
3.　人間関係特定研修講座 …… 162
4.　コンサルテーション …… 164
5.　社会人研修参加者統計 …… 166
6.　1987年度人間関係研究センター事業予定 …… 167

南山短期大学人間関係研究センター規程 …… 169

■ 研 究 会 1

1985年7月20日　13：40 ～ 16：30
出 席 者　12名

今日からみた人間関係科創設の意義



澤 田 慶 輔（創価大学教授）

1909年鹿児島市に生まれ，1931年東京帝国大学文学部心理学科卒業。
東京大学教育学部教育心理学科教授（名誉教授），立教大学文学部教育学科教授，南山短期大学人間関係科教授を経て，創価大学教育学部児童教育学科教授。
最近の著書　「生活指導論」（文教書院，1981年），
「道徳教育」（創価大学出版会，1983年），
「カウンセリング」（創価大学出版会，1984年）

南山短期大学人間関係科は創設14年目を迎え，内部的には常に流動的要素を包みこみながらも安定した成長をとげてきたと言えるであろう。その人間関係科が昭和60年7月，人間関係研究センター主催での研究会で創設の意義を問い直したのは大変時宜にかなったことであった。

講師の澤田慶輔先生は東京大学および立教大学における長年にわたる教育心理学・教育学・カウンセリングなどの研究と教育，さらに立教大学キリスト教教育研究所でのご経験を積まれて後，南山短期大学人間関係科の創設時に教授としてご就任いただいた。先生は創設時の人間関係科を支える大きな力となって下さったのであるが，このたびのお話では4年間にわたる「人間関係の個人心理学的基礎」という科目のご担当を通してのご経験，またその後，人間関係科を離れられてからのご研究などをふまえ，人間関係科が目ざしたものや，その現代教育における意義などを，ご自身の問題意識という形で述べられた。

人間関係科は「体験学習」方式を採用しているが，この学習は身近な人間関係の直接的体験の学習が中心になる。このような学習の進め方によると人間関係を巨大な社会の政治的経済的文脈において理解することは困難にならざるを得ない。人間のさまざまな行動の発生条件の説明のために政治的経済的条件の知識・理解はもちろん必要である。しかし身近な人間関係の現実のさまざまな状況に対して常に知・情・意が同時に働かされてよりよい人間的な対応の仕方を模索する学習が人間関係についての体験学習として求められて来た。

先生はニールの『問題の子ども』の冒頭に引用されているバーナード・ショウの教師に対する警句「それをよく行うことができるものは行い，できないものは教える」を紹介され人間関係科の重要な指導原理となっている「いま，ここで」という考え方についてまず言及された。幼児期の経験に重要な意味をもたせるフロイドの考え方などと対峙されるこの原理はロジャースやパールズ，

またゲシュタルトセラピーなどによって治療の場において基本的とされる原理である。人間関係においてもこの原理にそって知識を教える教育をおこなうよりは「いま，ここで」の実際の教員と学生，学生間のかかわりを大切にすることとなるが，先生はこの原理が教育の場においては分析，そして知識との統合へと進められていくことが必要であると強調し問題提起をされた。

澤田先生は体験の一般化・理論化のために体験学習方式による直接体験の限界を「追体験」という方法を用いて克服することを南短の人間関係科で試みられた。それが特に「体験学習」の段階としてあげられている体験—指摘—分析—仮説化のなかで，分析のためには必要と感じられたからであった。しかし，各学生が追体験から指摘するものは必ずしも適切であるとは限らず，追体験を明確化する援助も実に根気のいる作業であった。体験学習方式において「いかに分析するか」がまだまだ未解決の問題であることを先生は指摘されたのであった。

人間関係科創設時の原点に立ち戻り，その意義を特に人間関係科教育の基本的原理に内在する問題点とのかかわりの中で指摘された先生のご講演は，私達がまだ未解決のままかかえているさまざまな課題を明らかにし，これからの方向を模索する上で重要な示唆に富むものであった。

（文責　伊藤　雅子）

■ 研 究 会 2

1985年12月20日　16：15 ～ 18：30
出 席 者　16名

スペインにおける生命倫理研究の現状

まどか　庸　代　（南山短期大学講師）

いのち・生命論を研究テーマとして活動する。
Life Science 専攻。
1983～1985　神学領域からの Bioethics―生命倫理―研修のため，マドリッド・ロンドン滞在。コミリャス大学大学院・倫理学高等研究所等で倫理神学基礎論・医学倫理・人格論を学ぶ。

近年，脳死の判定基準をめぐって生命倫理という言葉がしばしば使われるようになって来ている。昭和61年12月20日に開催された「スペインにおける生命倫理研究の現状」と題する研究会は，この生命倫理という言葉の周辺の諸問題を整理し，私達に課せられたこれからの責任などを問うものであった。

講師のまどか庸代氏は自然科学，特に分子生物学，分子遺伝学の研究を重ねられて後，現在は生命倫理の研究を続けられているが，今回の研究会では主として科学史の立場から生命誕生の背景，生命倫理が科学と神学にもたらした影響について豊富なデータを提供された。

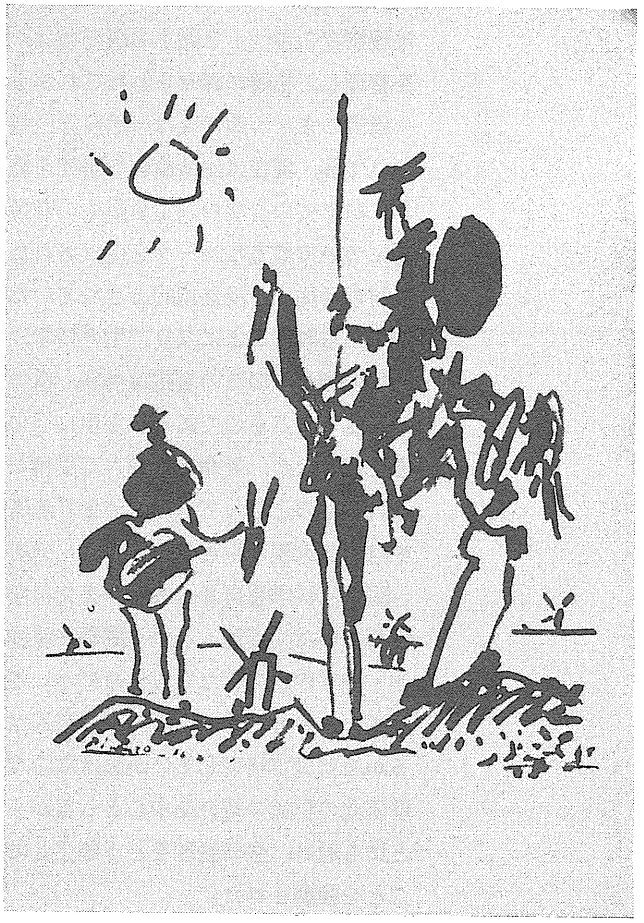
科学は従来，没価値的とされていたが，生命を扱う場合には生命の価値判断が求められることになり，生命科学，そして生命倫理が誕生したのであった。科学の側からのこの変化は当然，哲学・神学の課題となってきた。生命は人間に与えられるものであるから生についても死についてもただ一方的に受容すべきであったが，延命技術や人工受精などの可能性が広がるにつれて生命は選択されるものとなってきた。つまり患者やその家族は医師や科学者たちから自分や自分の家族の生と死について「何を選択するか」の問いを受けるのである。

医師・科学者自身もまた今まで科学や技術の側面では直接関係していないとされていた「価値」という問題に直面せざるを得なくなった。が同時に倫理哲学・神学の研究者たちも生命について今までの考え方を再検討する必要に迫られているのである。そして一般市民は十分な知識や準備もないままに，どうするかを自分で決定していかねばならない。まどか氏はスペインにおける生命倫理研究の現状の紹介を中心としながらも，世界の各国の現状，日本での課題などにも触れ，生命倫理をどう確立していくべきかに私達も深くかかわっていることを強調された。

生命倫理は果して確立されるであろうか。生命をめぐるさまざまな状況のな

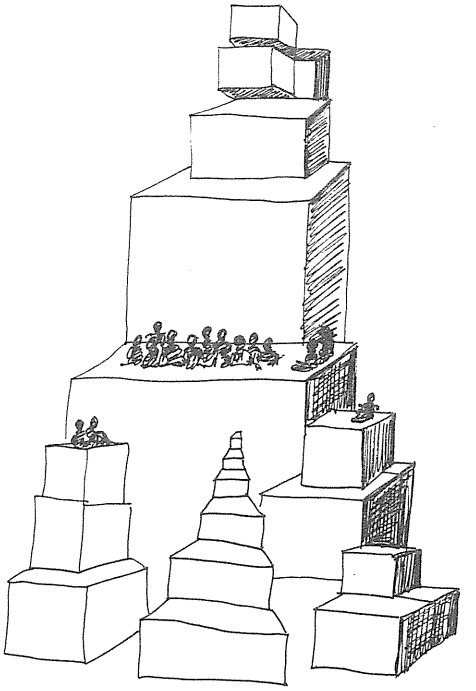
かで一筋に確立されることは望み薄であるかも知れない。その時に，生命倫理は従来の状況倫理とどこで一線を画するのか，またそれが可能なのかという課題を残しながら，私達自身の意識をかき立てられた研究会であった。

（文責　伊藤　雅子）



PICASSO・Don Quichotte

■ 社会人研修／概要



“ねむりこけたままほうられている人間が多すぎる”
—サン・テグジュペリ

センターの重要な活動である社会人のための公開講座は，昭和52年のセンターの発足時から毎年定期的に開講されている基礎研修講座を中心に，各種の専門研修講座や特定研修講座を開催している。これらの講座は南山短期大学が地域社会に対してユニークな学習の場を提供する機能と同時に，センター研究員に対して教育訓練に関する多様な臨床研究の場を提供する機能とを果している。

基礎研修講座は毎年春秋２回開催され，既に18回を重ねている。基本的なプログラムは週１回約３時間（午後６時15分～９時）の研修を８週間続けて１コースとし，体験学習による自己理解や他者理解，コミュニケーション・プロセス，グループ・プロセスの基礎を学ぶことを目指している。受講者にとっては，利害関係にとらわれることなく，さまざまな人々と接触を持つことも魅力の一つであり，そこから新しい友人関係や仲間意識が自主研修グループに育っていく場合もある。

専門研修としては，“自己理解を深める”研修と“グループ・プロセスの理解を深める”研修とが基礎研修に続く研修として開講されている。いずれも集中的な体験過程を重視するため，１回１泊２日の宿泊研修を２回続けて１コースとしている。

特定の専門職にある人々のための特定研修講座として1984年度から「教師のためのセミナー」が開講されており，また現在休講になっている“カウンセラーのための講座”も再開を目指して準備中である。

一方，コンサルテーション活動は地域社会の個人や組織体に対してセンターが提供できる専門的援助機能であり，1984年度には「名古屋いのちの電話準備委員会」に対して約100名の電話相談ボランティアの「人間関係基礎訓練」の訓練計画の立案・実施の援助を行なった。この「名古屋いのちの電話」は1985年７月から相談業務に入り，センターは引き続き1985年度，1986年度と「人間関係基礎訓練」「継続研修」の訓練計画と実施の援助をしている。

この９年間の各開講講座の概略および参加者数とその内訳は別表（p. 166）の通りである。

■ 社会人研修／人間関係基礎研修講座

自分自身のことをもっとよく知りたい，自分の行なっているコミュニケーションのあり方を点検したい，グループのメンバーとしての自分の能力をみがきたい，など人間関係の学習の主要テーマを，特別に開発された実習を個人やグループで実施しながら，体験的に学習してゆきます。

この研修は，毎週一回ウィークデイの夜間（6：15〜9：00）を用いて，8週間で一コースになるように計画されています。春・秋各一回開催しております。

〔参加資格〕　20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）

〔参加定員〕　40名

この講座は開講当初は「入門講座」と称していたが，第9回から「基礎研修」と改められ，これまで通算18回，参加者638名を数えている。詳細は本紀要 p. 137〜p. 149をお読み下さい。

（例）第18回　人間関係講座　基礎研修

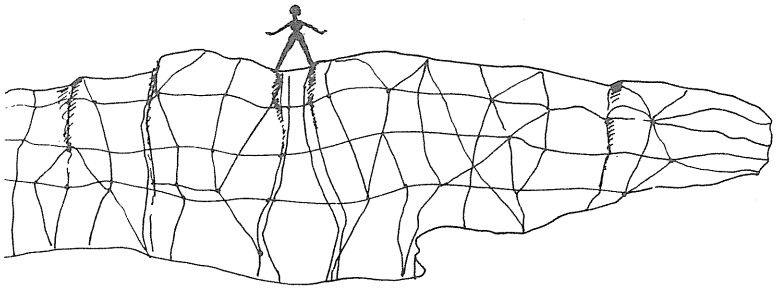
講座のねらい

今ここでのお互いの関係の中で

- 自分がどのような動きをしているか。
- 他者がどのように動いているのか。
- 相互にどのように影響し合っているのか。
- どんな行動パターンがあるのか。
- 自分，他者がどのような価値観をもっているのか。
- グループの中にどのようなことがおこっているのか。

などに気づき，

自分，他者，グループに適切な行動をとる。



■ 社会人研修／人間関係専門研修講座

通称「継続研修」と呼ばれ，人間関係講座で基礎研修を終了した方や，既に体験学習による研修に参加したことのある方で，さらに学習を深めたい方々のための研修です。ウィークエンドに行なわれる一泊二日の集中的なプログラムで，二回で終了するように計画されています。

これまで10回の講座が開かれて，147名の参加者がありました。

継続研修（A）　—自己啓発—

特に自己理解を深めることや自己表現を試みることを通して自分の可能性を発見し，他者とのかかわりの中で自己成長してゆくのに必要な能力を養えるように援助します。

（例）人間関係講座，継続研修A　（1986年度）

自　己　啓　発

“グループ内での相互関係を通して自分の可能性をひろげる”

この講座のねらいは

○相互援助関係のなかで自己理解，他者理解を深める。

○新しい自己表現を試みる。

○より創造的なかかわりあいをもつ。

日程表はp. 160に掲載。

講座担当者

南山短期大学　R.A.メリット

継続研修（B）　—グループ成長—

グループやチームのメンバーとしての自分や他者の影響関係に気づき，人間関係の改善や相互援助関係・信頼関係の形成に必要な能力を養えるように援助します。

（例）人間関係講座，継続研修B　（1985年度）

グ　ル　ー　プ　成　長

“生き生きとしたグループライフの成長をめざして”

この講座のねらいは

○グループが成長していく過程を体験する。

○他者との出会いを体験する。

○グループの諸要素についての理解を深める。

○グループのなかでの自己の行動様式を理解し変革を試みる。

日程表はp. 161に掲載。

講座担当者

南山短期大学　星野　欣生

中堀仁四郎

人間関係専門研修講座
継続研修A

1986年度　自己啓発日程表

1986.10/ 18〜10/ 26

	10月18日（土）	10月19日（日）	10月25日（土）	10月26日（日）
AM 7：00				
8：00		朝　食		朝　食
9：00		かたづけ		かたづけ
10：00		・冥　想 ・ノンバーバル —2人組で— ・「目と目」 ・「お散歩」 ・「出会いのこころみ」 （ベタニア）		・傾　聴 （2人組で） ・わかちあい（模造紙） ・ノンバーバル 「お互いにかかわる」
11：00				
12：00				
PM 1：00	受　付	昼　食		昼　食
2：00	・オリエンテーション 生活案内 メンバー紹介 ねらい ・実習「自分を知る」 —自己診断—	かたづけ・移動 ・「出会いのこころみ」 わかちあい ・冥　想 ・映画「PARABLE」	・イントロダクション ・葛藤のファンタジー ・わかちあい （自分の反応の基本型は？） ・ゲシュタルト 「言葉をいいかえてみる」 —コーヒーブレイク— ・自己サボタージュ ・内なる対話	・Therapeutic Touch ・自己啓発のための 小さな行動 （日常生活において） まとめ
3：00				
4：00				
5：00		ベタニア　かたづけ		
6：00	準　備	さようなら！ また来週		2週間 たのしかったですね ごきげんよう！
7：00	夕　食		夕　食	
8：00	かたづけ ・BOX 作り ・わかちあい ・映画「IN A BOX」		かたづけ・移動 「Movement」 ・音楽にあわせて自由に… ・形のある踊り ・映画「トライアングル」 踊る	
9：00				
10：00	語らい& コーヒーブレイク		語らい & “デザートを楽しむ”	
11：00	お　風　呂		お　風　呂	
12：00	おやすみなさい		おやすみなさい	

人間関係専門研修講座
継続研修B

1985年度　グループ成長日程表

1985.7/ 6〜7/ 14

	第1日7月6日（土）	第2日7月7日（日）	第3日7月13日（土）	第4日7月14日（日）
9：00		グループ活動（Ⅱ） コンセンサスによる集団決定の練習		グループ活動（Ⅳ） ふりかえりの話し合い（フィードバック）
10：00				
11：00				
12：00		昼　食		昼　食
1：00	受　付	ふりかえりの話し合い（フィードバック）		この研修全体のふりかえり
2：00	導入 ・この講座のねらい ・〃　での学び方 「互いに知り合う」	2日間をふりかえって	グループ活動（Ⅲ）	
3：00				
4：00				
5：00				
6：00	夕　食		夕　食	
7：00	グループ活動（Ⅰ） 問題解決の実習 ふりかえりの話し合い（フィードバック）		ふりかえりの話し合い（フィードバック）	
8：00				
9：00				
10：00	入浴・就寝		入浴・就寝	

■ 社会人研修／人間関係特定研修講座

教師のためのセミナー

『生き生きした授業をつくる』

—ヒューマニスティック・エデュケーションへの接近—

このセミナーは現在教職に就いている人々が，学級の中でのひとりひとりの児童・生徒の真実の姿に迫る視点を探り，子供たちが生き生きとした感情や意欲を発達させることができるような授業をつくり出せるように，自己発見と自己成長のための相互啓発の場を提供することを目的としています。

特に次の様な方におすすめします。

＊児童・生徒の知識や技能を伸ばすだけでなく，情意も豊かに伸ばす授業づくりに取り組んでいる方，又は取り組みたい方。

＊体験やイメージやファンタジーを使って，教室での学習をもっと楽しく興味深いものにしたいと思っている方。

＊児童・生徒ともっと深いところで対話を持って，心理的成長を援助できるようになりたいと願っている方。

＊教師としての自分の可能性をもっと探ってみたいと思っている方。

1985年度は10月３日〜1986年１月23日までの木曜日（午後６時15分〜９時）に12回実施した。参加者は現職教員５名（女３・男２）。

1986年度は10月２日〜12月18日までの木曜日（午後６時15分〜９時）に11回実施した。参加者は現職教員７名（女６・男１）。

内容は，自分自身の情動に対する気づきを深めるための実習や話し合いを中心にしたゲシュタルト・アプローチを取りながら，適時読書報告や参加者の教育実践報告などを交え，熱心に進められました。

日　程	内　　容	日　程	内　　容
第１回	ねらいの提示と共有化 自分を語る実習	第７回	自由な話し合い 小講義
第２回	自由な話し合い・読書感想 気づきの実習	第８回	自由な話し合い リフレクターの実習
第３回	自由な話し合い・読書感想 ファンタジーの実習	第９回	自由な話し合い リフレクターの実習
第４回	自由な話し合い 教育実践報告	第10回	自由な話し合い リフレクターの実習
第５回	自由な話し合い 気づきの実習	第11回	自由な話し合い 小講義
第６回	自由な話し合い パーソナル・リスポンスの実習		

—参加者の感想の中から—

＊「教える」ということは技術より心を育てることだと思う。そのためにどの様に子供にかかわっていったらいいかということを教えてもらったように思うが，今までの自分がやってこなかったようなことばかりなので，自分自身に非常に迷いがある。

＊押しつけをしないようにする態度が育った。

＊自分について“したいこと”と“したくないこと”とが明確化されたことによって余分なカラが取れたように感ずる。

＊これまでの子供へのかかわり方を見直すことができたと同時に，少しではあるが子どもへのかかわり方に変化が見られた。

＊学んだことを，個々の生徒との関わりの中で試みたり，自分自身に対して，試みたりすることで，自分の中の混沌が少し整理されてきたように思える。

＊自分自身の心，潜在的にあるものをはっきり意識できたり，イメージを思い浮かべる訓練をしたことは自分にプラスになっている。

＊いろんな学校の先生が集まっているので，学校教育の現状がわかった。

■ コンサルテーション

○「名古屋いのちの電話」電話相談員養成講座の計画と実施

「いのちの電話」は，訓練を受けたボランティアが電話を通して，さまざまな悩みや心の危機に直面しながら身近に相談できる相手がなく孤独の中にいる人たちの，良き相談相手になっていこうとする市民の奉仕活動である。1953年にロンドンで始められ，現在では世界40ケ国，数百都市に設立されている。日本では，1971年に「東京いのちの電話」が開設され，今日まで東京，横浜，京都，大阪など27都市に設立され，「日本いのちの電話連盟」を組織して各地でそれぞれ独自の活動をしている。

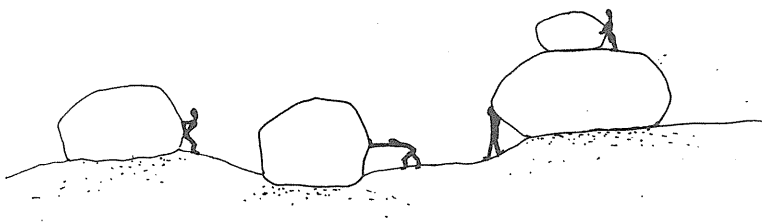
「名古屋いのちの電話」は全国で23番目の「いのちの電話」として1985年7月に開局し，現在130名余りのボランティアが年中無休の電話による心理的危機に対する援助活動に参加している。人間関係研究センターは，名古屋いのちの電話訓練委員会からの要請で，相談員養成講座の第一課程である人間関係基礎訓練のプログラムの立案と実施のコンサルテーションを行なっている。本年（1986年）7月には「名古屋いのちの電話」より感謝状の贈呈を受けた。

基礎訓練は「自己理解を深める」をねらいとして，1回2時間のセッションを毎週1回，計8回の体験学習プログラムを立案し，1985年度は第2期生（50名）の基礎訓練を1986年1月から3月に実施した。1986年度は第3期生（60名）の基礎訓練を1986年10月から12月に実施し，同時に既に相談員として認定を受けた人の中から基礎訓練の担当スタッフを養成するためのプロジェクトを開始した。

ねらい：「自己理解を深める」

- ○ 自分の価値観（考え方や行動の特徴）に気づく。
- ○ 自分のありのままを表現する。
- ○ 相手のありのままを聴く。
- ○ 対人関係（自分との，他者との）のなかにある自分のあり方に気づく。
- ○ 今，ここでの関係の中におこっていることに気づく。

この訓練は，電話相談養成の目的で行われたものであるが，決して相談員となるための技能訓練ではない。社会の中で，人とのかかわりの中で，共に生きようとするときに，誰でも求められることがらの訓練としてプログラムされたものである。



1986年度　名古屋いのちの電話第Ⅲ期人間関係基礎訓練の全日程表

日　程	ね　ら　い	実　習・講　義
10／ 5	・お互いに知り合おう ・体験から学ぶ	・文章完成 ・お互いに知り合う ・小講義「体験学習」 ・実習「ブロックモデル」 ・小講義「共に学ぶ」
10／14	・プロセスとコンテントの違いに気づく	・スキット「思いやり」 ・小講義「プロセス・コンテント」 ・実習「おもしろ村」
10／21	・聴くことの重要性に気づく	・ロールプレイ「聴けない場面」 ・実習「確認しながら聴く」 ・小講義「コミュニケーション」
10／28	・より深く話し，聴き，観察する能力を養う ・援助的にフィードバックをしてみる	・実習「話し，聴き，観察する」 ・小講義「傾聴」
11／4	・人と関わるときの自分のあり方に気づく ・援助的にフィードバックをしてみる	・実習「参加と観察」(1) ・小講義「フィードバック」
11／18	・人と関わるときの自分のあり方に気づく ・援助的にフィードバックをしてみる	・実習「参加と観察」(2)
11／25	・今の自分に気づく	・実習「Self Box」
11／30	・共に集い，楽しむ ・これまでの気づきを生かしてみる	・レクリエーション ・実習「若い女性と水夫」

■ 社会人研修／参加者統計

社会人研修講座受講者数

人間関係研究センター

	講座名	期間	時間	曜日	参加者数	性別 男	性別 女	居住地 市内	居住地 市外	職業 公務員	職業 団体職員	職業 会社員	職業 自営業	職業 医療関係	職業 教育関係	職業 教会関係	職業 主婦	職業 学生	職業 その他	年令 20～29才	年令 30～39才	年令 40～49才	年令 50才以上
人間関係基礎研修講座	入門講座 (1)	S52 10/13～12/8	18:00～20:30	木	48	25	23	31	17	4	7	18	4	6	2	4	3	0	0	15	13	16	4
	入門講座 (2)	S53 5/20～7/8	14:00～17:00	土	42	10	32	32	10	0	3	8	0	2	9	2	10	8	0	15	13	11	3
	入門講座 (3)	S53 10/12～12/7	18:15～20:15	木	45	12	33	16	29	6	0	12	4	3	3	2	4	10	1	19	10	10	6
	入門講座 (4)	S54 5/10～6/28	18:15～21:00	〃	43	13	30	34	9	2	1	14	0	1	8	10	4	2	1	26	13	2	2
	入門講座 (5)	S54 10/4～11/29	〃	〃	38	5	33	27	11	0	1	6	2	3	13	3	1	6	3	20	11	3	4
	入門講座 (6)	S55 5/8～6/28	〃	〃	30	7	23	24	6	3	0	5	0	3	5	1	4	6	3	14	10	3	3
	入門講座 (7)	S56 4/30～6/18	〃	〃	26	9	17	18	8	1	2	9	1	2	3	0	4	3	1	14	5	3	4
	入門講座 (8)	S56 9/24～11/12	〃	〃	25	14	11	20	5	1	2	12	0	1	2	0	2	3	2	15	7	3	0
	基礎研修 (9)	S57 5/6～6/24	〃	〃	28	11	17	21	5	2	0	5	2	1	2	4	5	5	2	12	6	8	2
	基礎研修 (10)	S57 9/24～11/12	〃	金	34	14	20	25	9	2	2	8	1	2	4	1	6	5	3	14	13	7	0
	基礎研修 (11)	S58 5/6～6/24	〃	〃	38	13	25	23	15	2	0	12	3	8	2	1	3	4	3	25	7	3	3
	基礎研修 (12)	S58 9/30～11/25	〃	〃	32	10	22	15	17	4	2	9	4	3	2	0	2	5	1	25	6	0	1
	基礎研修 (13)	S59 5/11～7/6	〃	〃	50	16	34	33	17	1	4	17	1	8	10	1	6	0	2	27	14	7	2
	基礎研修 (14)	S59 9/28～11/30	〃	〃	40	8	32	26	14	5	4	9	0	8	4	1	3	1	5	21	12	6	1
	基礎研修 (15)	S60 5/10～6/28	〃	〃	33	5	28	24	9	0	4	11	0	2	5	1	8	2	0	12	11	5	5
	基礎研修 (16)	S60 9/27～11/15	〃	〃	28	8	20	12	16	1	1	7	1	2	6	0	4	5	1	15	5	3	3
	基礎研修 (17)	S61 5/16～7/11	〃	〃	34	3	31	26	8	2	0	12	0	4	5	0	3	3	3	20	7	5	0
	基礎研修 (18)	S61 9/26～11/28	〃	〃	24	5	19	11	13	1	0	6	0	2	5	0	5	1	4	10	8	7	0
	計 (1)				638	188	450	418	218	37	33	180	23	61	90	31	77	69	35	319	171	102	43
人間関係専門研修講座	人間関係講座II	S58 10/28～11/25	18:00～17:00	土	24	7	17	22	2	2	3	2	0	4	3	1	3	6	0	7	9	7	1
	人間関係講座I	S54 10 13,14 20,21	14:00～16:00	1日 2,11 1~11	14	6	8	9	5	2	0	3	0	3	3	0	0	2	1	6	7	1	0
	人間関係講座I	S55 10 4,5 11,12	〃	〃	8	3	5	6	2	2	1	0	0	2	2	0	0	1	0	2	3	2	1
	人間関係講座II	S55 10 18,19 25,26	〃	〃	8	2	6	7	1	0	2	1	0	2	0	0	0	3	0	4	2	1	1
	人間関係講座I	S56 6 13,14 20,21	〃	〃	16	3	13	12	4	1	2	1	0	2	0	0	3	5	2	8	4	2	2
	人間関係講座II	S56 11 7,8 14,15	〃	〃	7	1	6	6	1	1	1	2	0	1	1	0	0	1	0	2	2	3	0
	人間関係講座A	S57 6 12,14 19,20	〃	〃	8	5	3	7	1	2	1	0	0	1	1	0	0	1	2	1	2	2	3
	人間関係講座A	S58 7 9,10 23,24	〃	〃	20	5	15	14	6	1	0	7	2	8	1	0	1	0	0	11	6	3	0
	人間関係講座A	S59 7 14,15 21,22	〃	〃	4	0	4	2	2	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0	3	0
	人間関係講座B	S59 1/21,22 2 4,5	〃	〃	13	1	12	5	8	0	1	4	0	3	5	0	0	0	0	7	2	4	0
	人間関係講座B	S60 7 6,7 7 13,14	〃	〃	9	4	5	4	5	0	0	1	0	3	3	0	1	1	0	2	2	4	1
	人間関係講座A	S61 2 22,23 3 1,2	〃	〃	12	4	8	7	5	3	0	4	1	0	2	0	1	1	0	7	4	0	1
	人間関係講座A	S61 10 18,19 10 25,26	〃	〃	4	1	3	2	2	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	1	3	0	1
	計				147	42	105	103	44	14	11	28	3	30	23	1	10	21	6	59	46	32	11
人間関係特定研修講座	CLL講座1	S52 11/4～12/9	16:30～18:00	金	14	6	8	7	7	0	0	1	1	0	12	0	0	0	0	2	8	2	2
	CLL講座2	S53 5/19～7/7	17:00～18:00	金	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	1	0
	計				16	6	10	9	7	0	0	1	1	0	14	0	0	0	0	2	9	3	2
	カウンセリング	S53 6/10～7/22	17:30～20:00	土	15	2	13	7	8	0	2	1	0	1	10	1	0	0	0	5	5	3	2
	カウンセリング	S54 10 6,7,13 14,21,22	14:00～17:00	土～日	15	1	14	15	0	0	1	2	0	1	5	6	0	0	0	3	1	4	7
	計				30	3	27	22	8	0	3	3	0	2	15	7	0	0	0	8	6	7	9
	リーダーのためのキリスト教講座	S56 8/24～27	9:00～21:00	月～木	17	4	13	4	13	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	1	2	9	5
	教師のためのセミナー	S59/10 S60 1/19	15:00～18:00	土	12	4	8	8	4	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	2	5	4	1
	教師のためのセミナー	S60 10/3～S61 1/23	18:15～21:00	木	5	2	3	3	2	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	3	2	0	0
	教師のためのセミナー	S61 10/2～12/18	〃	〃	7	2	5	3	4	0	0	0	0	0	6	0	0	0	1	1	5	0	1
	計				41	12	29	18	23	0	0	0	0	0	23	17	0	0	1	7	14	13	7
総計					872	251	621	570	300	51	47	212	27	93	165	56	87	90	42	395	246	157	72

無答2（年令）

■ 社会人研修／1987年度人間関係研究センター事業予定

南山短期大学　　The Center for the Study of Human Relations
人間関係研究センター　　of Nanzan Junior College

個性ある生き方と人間性豊かな社会をつくり出すために

私たちは一人ひとり豊かな人間性と独自の個性とを持ったかけがえのない存在です。ところが現代社会の中で私たちは，役割の中に埋没し，互いに心を閉ざし，かかわり合うことをおそれ，人間をあたかも物の如くに扱い，自分も取るに足らぬ者としか感じられなくなってはいないでしょうか。

人間関係の教育は，対話を通して自分の価値観や人生観をみがき，他者への思いやりと感受性を豊かに養い，ひとりひとりが生かされるグループや共同体を形成し，人間疎外の社会を愛と信頼関係のあふれる人間尊重の社会へと変革することと，それらの担い手を育てることに取り組みます。

いまこそ本当に人間関係の教育が必要とされているのです。

一般研修

人間関係講座　―基礎研修―

自分自身のことをもっとよく知りたい，自分の行っているコミュニケーションのあり方を点検したい，グループのメンバーとしての自分の能力をみがきたい，など人間関係の学習の主要テーマを，特別に開発された実習を個人やグループになって行いながら，体験的に学習してゆきます。この研修は，毎週一回ウィークデイの夜間（6：15〜9：00）を用いて，8週間で一コースになるように計画されています。春・秋各一回開催しております。

第19回　人間関係基礎講座
1987年5月1日（金）〜6月19日（金）午後6時15分〜9時

第20回　人間関係基礎講座
1987年10月1日（木）〜11月19日（木）午後6時15分〜9時

〔参加資格〕　20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）
〔参加定員〕　40名
〔参加費〕　12,000円

継続研修

基礎研修を終了した方や，既に体験学習による研修に参加したことのある方で，さらに学習を深めたい方々のための研修です。ウィークエンドに行われる一泊二日の集中的なプログラムで，二回で終了するように計画されています。来年度からは四泊五日の集中的グループ体験による研修及び毎週一回10回程の研修も予定されている。

継続研修（A）　—自己啓発—

特に自己理解を深めることや自己表現を試みることを通して自分の可能性を発見し，他者とのかかわりの中で自己成長してゆくのに必要な能力を養えるように援助します。

〔参加資格〕　20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）で原則として基礎研修または体験学習を主とした研修に参加された方
〔参加定員〕　20名
〔参 加 費〕　12,000円

継続研修（A）　—セルフ・サイエンス—

アメリカ（University of Massachusetts）にて，ウエインシュタイン教授が提唱するトランペット・セオリー（The Trumpet）に基づいて，対人関係の中での自分の行動パターンを明確にするとともに，そのパターンの変革を試みようとします。

〔参加資格〕　20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）で原則として基礎研修または体験学習を主とした研修に参加された方
〔参加定員〕　20名
〔参 加 費〕　12,000円

継続研修（B）　—グループ成長—

グループやチームのメンバーとしての自分や他者の影響関係に気づき，人間関係の改善や相互援助関係・信頼関係の形成に必要な能力を養えるように援助します。

〔参加資格〕　20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）で原則として基礎研修または体験学習を主とした研修に参加された方
〔参加定員〕　20名
〔参 加 費〕　12,000円

特 定 研 修

教師のためのセミナー
「気づきを深める」　—ヒューマニスティック・エデュケーションへの接近—

「子供の真実の姿を理解していることは，効果的でなお創造性のある授業の実現に半ば成功したようなものだ」と言われますが，現在の教室での状況はいかがでしょうか。子供の真実の姿を理解するどころか，教師として子供たちの見せかけの言動にまどわされたり，色眼鏡で子供たちを見てしまったり，自分の感受性の乏しさに気づかないこともしばしばですし，逆に子供たち自身が自分の真実を見失ってしまっていることすら起こっています。このセミナーでは，学級の中の子供たちのありのままの姿をみる目を養い，ひとり一人の子供の真実に迫る視点を探ります。

このセミナーのプロセスは教職にある人々の相互啓発による自己発展と自己成長の機会になると思います。

〔参加資格〕　現在小・中・高校で教職についておられる方
〔参加定員〕　12名
〔参 加 費〕　12,000円

注）　1987年度開講予定のプログラムの日程等に関するご質問は南山短期大学人間関係研究センター（Tel. 052-832-6211／6214）までお問い合わせ下さい。

南山短期大学人間関係研究センター規程

第１条　本学に南山短期大学人間関係研究センター（The Center for the Study of Human Relations of Nanzan Junior College）（以下「センター」という）をおく。

第２条　センターはキリスト教的人間観に立って広く学際的・行動科学的に人間・人間関係の研究および研修を行うことを目的とする。

第３条　前条の目的を達成するために，次の各号の事業を行う。

1. 人間・人間関係に関する研究と教育の推進
2. センターと目的を共通にする学外研究機関との協力
3. 地域社会における開かれた大学としての諸機能を果たすために研究会・研修会等の開催および個別的相談・指導・援助等
4. 研究成果の刊行ならびに文献・資料の蒐集と一般への公開
5. その他センターの目的達成のために必要と認める事業

第４条　センターに研究員を置き，そのうち１名を主任とする。

②　研究員および主任は学長が委嘱する。

第５条　主任はセンターの事業を掌理し，センターを代表する。

第６条　センターは必要に応じて顧問・相談員・講師をおくことができる。

第７条　センターはその目的にそって研修しようとするものを研修生として受け入れ指導・援助を行う。

研修生についての規程は別に定める。

第８条　センターに事務職員をおく。事務職員は主任の指示をうけてセンターの事務を担当する。

付　則

本規程は昭和52年９月30日より実施する。

■ 編集後記

私たちの機関誌である『人間関係』も第4号をむかえ，人間関係研究センターの事業のひとつとして定着してきたようである。第4号といっても，前回が第2・3合併号（昭和60年3月発行）となったため実際は3冊目の発行である。今回は2年間の準備期間が用意されていたわけであるが，あいかわらずのぎりぎり編集で関係者には多大のご迷惑をおかけしたことを深くお詫びする。

年刊の機関誌として，編集日程がいまだに定まらないのは編集者の怠慢であるが，内容的には今回で一応の編集方針ができあがったのではないかと思う。ふりかえると創刊号で研究センター設立以来の事業のまとめをおこない，つづく第2・3合併号で人間関係科創設から10年間の教育実践のまとめを報告したことは，『人間関係』が本研究センターの研究紀要であると同時に人間関係科の教育実践報告の性格をあわせもっていることを示したものといえよう。いいかえれば，当研究センターの人間関係の研究は人間関係一般の研究を指向するものではなく，その教育や研修の現場との密接なつながりのなかでおこなわれており，この紀要においてもその点に私たちは価値をみいだしているといえる。要するに，教育や研修と研究の二重性を一体的に組み合わせたものが，これからも『人間関係』の編集方針となっていくものと思われる。その意味からすれば，前2冊をひきついだ今回が，通常の年刊機関誌として，教育実践報告と研究紀要をあわせた，第1回目であるということになろう。

本号の特集である「自己表現」も，上記の編集方針にそって，ここ数年来人間関係科の授業で重きをなしてきたテーマをとりあげ，その教育実践報告と，それと異なる視角からのテーマ研究を組み合わせてみた。また今回から新たに「ミニレクチャー」のセクションをもうけた。これは人間関係の教育・研究において登場するキー・コンセプトをひろいだし，概念整理をおこなって，教育・研修の場で利用しやすい形にまとめたものである。今後とも継続して項目を増やし，将来的には人間関係教育・研究のキー・ワード集となることを期待している。それとともにこのセクションでは，国内外の重要な教育研究動向や新しい研究セオリーを紹介しあるいは解説する原稿を，今回同様，掲載してゆきたいと思っている。

今回「投稿」セクションに原稿を掲載できなかったことはかえすがえすも残念である。現在，センター研究員は人間関係科教員全員の兼務となっているが，通例に倍する授業担当をもつ内部の限られた執筆者だけでは内容の充実をはかってゆくことは困難である。これからさらに学外の人的チャンネルをひろげ内容の一層の充実をはかりたいとおもっている。それには，「投稿」セクションのみならず紙面全体にわたるとりわけ学外の方々から寄せられる御批判と御投稿が重要であるとの認識に編集者一同立っていることをあらためて申し添えておきたい。

最後に，今回ご多忙ななか執筆の労をおとりいただいた方々にこの場をかりて感謝いたします。

（中野　清　記）

南山短期大学人間関係研究センター研究員

（1986年４月〜1987年３月）

主　任　　山口　真人

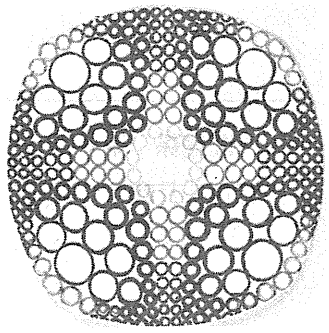
研究員　　會澤　俊三　　グラバア藤岡俊子　　樋田大二郎　　堀部　憲夫　　星野　欣生

　　伊藤　雅子　　木村　晴子　　まどか(蛭田)庸代　　リチャード・メリット

　　宮本　　桂　　中堀仁四郎　　中野　　清　　大森　正樹

　　竹内　敏晴　　津村　俊充　　（ＡＢＣ順）

事務局　　渡辺みどり



編集者　津　村　俊　充
山　口　真　人
中　野　　清
中　堀　仁四郎

人間関係　第４号
1987年３月20日　発行

編集発行者　〒466　名古屋市昭和区隼人町19番地
電　話（052）832－6211・6214
南山短期大学人間関係研究センター
代表者　山　口　真　人

印　刷　所　尾　頭　橋　印　刷　所
名古屋市中川区尾頭橋３丁目22番６号
電　話（052）331－5077㈹